

令和元年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

第1回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

7月4日(木)開催

「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」は、いじめの防止等のために、学校、教育委員会、そして、関係する機関及び団体の連携を図るために、氷見市いじめ問題対策連絡協議会設置要綱に基づいて、年に2回開催されています。本委員会の委員長である中学校長会長の広瀬毅校長先生に司会をしていただき、いじめ問題について協議しました。委員の皆さんからは、次のような意見が出されました。



- ・ SNS については、同じ学校の子供だけでなく他校の友達からのいじめということも起こっている。
- ・ 子供たちと一緒に汗をかいて遊ぶなど、子供と触れ合う機会を増やすことで、いじめの早期発見にもつながるだろう。
- ・ 「ボイスチャット」などのオンラインゲーム内の仮想空間で知り合った人をいじめるということが起きている。例えば小学生が中学生をいじめる場合もある。子供を取り巻く環境が変わってきている。
- ・ 子供を支えるという視点と家庭を支えるという視点から支援していきたい。

教育委員会事務局として、今回の貴重な意見や提案を参考にし、関係機関との連携を一層強めていきたいと考えています。各学校においては、より実効性のあるいじめ防止対策を推進されるようお願いします。

第1回 ICTを活用した授業づくり研修会

6月13日(木)開催

研究授業 「世界と比べた日本の地域的特色」 西條中学校 中山 隼人 教諭
講師 富山国際大学 教授 瀬戸 健 先生

昨年度に引き続き、西條中学校区の3校に「ICT教育推進協力校」になっていただき、授業実践を基にした研修会を行います。その第1弾として、西條中学校の中山先生に授業を公開していただき、ICTを効果的に活用した授業づくりの在り方について研修しました。



中山先生は、「ジグソー学習」を取り入れて設定された視点について話し合ったり、思考を整理するツールとして「ダイヤモンドライニング」を活用したりしました。生徒たちがタブレットPCを活用して、積極的に話し合う姿が見られました。

また、ICT教育推進委員から、小学校のプログラミング教育で活用できる「Viscuit」の使い方の説明も行いました。

講師の瀬戸先生からは、ICTの活用についてだけでなく、対話することの大切さについて、具体例を示しながら話していただきました。今回学んだことを基に、氷見市のICT活用をさらに推進していきたいと思えます。参加者の感想の一部を紹介します。

- ・ 生徒たちがタブレットPCをスムーズに使っている様子に驚いた。自分はまだまだ使いこなせていないので、学習のツールとして有効に活用できるようになりたいと思った。
- ・ 授業に話し合いを取り入れるだけでなく、生徒が意欲的になれるような活動の流れや指導の工夫が大切だと感じた。
- ・ 学校全体でICT活用に取り組んでいることが伝わってきた。

学力向上研修会

7月30日(火)開催

演 題 「数学科教育で育てる学力」
講 師 富山国際大学子ども育成学部 教授 辻 井 満 雄 先生

講演の初めに、「一年間に買う算数・数学の雑誌や本の数」や「持っている算数・数学関係の本の数」、「一年間に行う誤答分析や研究授業の回数」等を問われました。我が身の在り様を反省した参加者も多かったのではないのでしょうか。

前半は、AIの普及する社会における教員の役割や、思考力を育てる10のポイント、授業力を高めるコツ等について話されました。後半は、学力向上に必要な指導力として挙げられた「面白い教材をつくる教材研究力」、「楽しさを実感する学習指導力」、「やる気にさせる授業観や人間性」の中の「教材研究力」について、実際に問題に取り組むことを通して考えました。既習事項を活用して解く難しさや楽しさ、解けたときの喜びを体験し、2学期からの算数・数学の授業づくりへの意欲を高めました。



<参加者の感想>

- ・これからの授業を高めていくためにどうしたらよいかがよく分かった。まずは授業観をもつこと、教材研究をしっかりとすることが大切だと思う。夏休み中に1冊でも多くの本を読み、自分の力につなげたい。
- ・ICTを活用したり、実際に折り紙を折ったりする参加型の講演会で、生徒になったような気持ちで、体験活動の大切さを改めて感じる事ができた。
- ・実際におもしろい教材に触れることで、教材の重要性を実感できた。教材に引きつけられると、自然と、「なぜ?」「どうすればよいのか?」という気持ちが出てきたように感じた。
- ・本来、算数・数学の思考は楽しいものだと思う。しかし、実際には、考えがもてなかったり、理解できなかったりして、「つまらない」「苦手だ」と思う子どもがいる。どうすればよいか。自己研鑽あるのみ。

第1回教育セミナー

7月31日(水)開催

演 題 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」
講 師 國學院大学人間開発学部 教授 田 村 学 先生



最初に「深い学び」が成立するタイプを、模式図を使って分かりやすく説明され、参加者がしっかりイメージすることができた。

次に、「深い学び」を実現する授業のイノベーションについて説明された。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要な教師力として、子供の学びの姿をしっかりと「見取る力」の重要性を力説された。また、授業研究では、「固有名詞」と「具体的事実」で語ることで、授業改善に向けての代案を示すことの大切さも話された。

最後には、学年の学習活動を俯瞰した単元配列表の作成など、「深い学び」を実現するカリキュラム・デザインについて説明された。

<参加者の感想>

- ・「つなぐ、つなげる、つながる」という言葉を聞いて、深い学びのイメージが以前よりはっきりした。具体例を教えていただいたので、学習場面で意識して指導していきたい。
- ・新たな学びを受けたときには、これまでの学習とのつながりを生徒が自然と考えていくようにすることが大切だと思った。また、他者と話し合い、自分の考えをアウトプットすることで、理解が一層深まることも分かった。
- ・深い学びを実現するため、カリキュラム・マネジメントを充実させ、デザインするとあったが、本校では、取組の途中であるため、方向性を明確にするためにもデザインを描き終えたい。
- ・学年が上がるにつれて話し合いがうまくいく」と断言されていたのが衝撃的だった。意欲に差が付き、学力差がある中で話し合いの成立さえ難しく感じていた。しかし、生活体験が増え、自我も育ち、年齢を重ねた方がうまくいくのかもしれないと思った。

小学校外国語活動の授業より

7月10日（水）

上庄小学校 第1学年 授業者 T1 圓佛 純子 教諭
T2 キーラン

2020年度完全実施の学習指導要領に基づき、小学校では、3学年から外国語活動の授業を実施しています。氷見市では、以前より、ALTとの触れ合いを通して、低学年の児童も外国語（英語）や外国の文化に慣れ親しんできました。

上庄小学校では、低学年の外国語活動を1学期に3時間位置付け、体を使った楽しい授業を展開されています。授業の一部を紹介します。

1 あいさつ

2 歌 seven steps

3 時間を英語で言おう

児童：What time?

ALT：Three. 児童 時計を合わせる。

4 ゲーム オオカミさん今何時？

児童：What time, Mr. Wolf?

ALT：Four./ Seven./ Lunch time. 等

児童：1,2,3,4 と言って前進/ 1,2,3,4,5,6,7 と言って前進/
Lunch time と言われたら逃げる。捕まったらオオカミの仲間になる。

授業の振り返りで、「時計の数が英語で言えるようになってうれしい。」という感想が聞かれました。また、学校にお迎えに来た母親に、「今日、キーラン先生とミスターウルフのゲームをやって、とっても楽しかったよ！」と笑顔で伝えていた児童の姿が印象に残りました。



<キーラン先生のコメント>

とても楽しかった。児童は興味をもって活動し、思った以上に数字の言い方が分かっていた。外国語を習うことの楽しさを授業で感じてくれたと思う。この授業で、小学校1年の時に外国語の勉強を始めることは大切だと思った。

幼保小接続合同講演会

7月26日（金）開催

演題 就学期の段差に対応するための学びのユニバーサルデザイン
講師 山梨県立大学 教授 阿部 美穂子 先生



幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、子育て支援課と合同で講演会を開催しました。

阿部先生は、発達の連続性を踏まえて、幼児期の学びと育ちを小学校での成長につなぐことの大切さについて話されました。年長児から小学校低学年の子供たちは、幼児期の特徴と学童期の特徴を併せ持っているため、一人一人の発達の様相を踏まえた実態に応じた支援が必要だと力説されました。その具体策として、①選べる時間や場所、教材が設定されている、②教室環境がすっきりしていて、余計な刺激がない、③授業や活動の見通しがもてる、④言葉だけでなく、視覚的な手がかりを加える、といった手立てを挙げられました。

<参加者の感想>

- ・子供の発達の様相を踏まえた、実態に応じた支援の大切さを再確認した。
- ・スタートのつまづきが、その後の子供たちの成長に与える影響は計り知れない、どの子も安心して学べる環境を整えていきたい。
- ・自校でどのように取り組めばよいかイメージできた。若い先生方に伝えればよい「技」も学んだので、先生方に広めていきたい。

ALT ジョセフさん、ありがとうございました



英語や外国語活動で指導していただいたALTのジョセフ ギルバートさんが、7月末で勤務を終えられました。自分の夢に向かって、次のステップに進まれます。メッセージをいただきましたので紹介します。

Hello, everyone!

My name is Joseph Gilbert, but you can call me Joe! I have been living in Himi for 2 years, and have made lots of really wonderful memories here. I have made many amazing friends, and have become close with almost 1000 of Himi's amazing students!

I have taught at 7 schools during my time in Himi. Each school has its good points, and every student is special and wonderfully different from one another (even the twins!). I will miss all the smiling and

laughter, and all the conversations I had with my awesome kids. They taught me more than any class or any textbook ever could, and I'm grateful for every moment I spent with them.

To my students – I am so proud of you. Never stop being yourselves – I'll be cheering for you no matter where you go or what you do.

Himi, thank you for a great two years.

おすすめ 図書の紹介

本年度、新しく購入した新刊本の一部を紹介します。是非、ご一読ください。

資質・能力の三つの柱で単元配列表を描き、深い学びを実現するための方策について具体的に記載されています。カリキュラム・マネジメントを始める第一歩に最適な一冊です。



カリキュラム
マネジメント
田村 学 著
文溪堂

全員参加の授業づくりは、まず子供のやる気を引き出すこと。課題意識の共有とつながりづくりが「主体性」を生み出し、「協働」の地盤が形成されていきます。アクティブ・ラーニング時代の授業づくり入門書です。



やる気を引き出す
全員参加の授業づくり
赤坂 真二 著
明治図書出版

最高の学級づくりを実現するパーフェクトガイドです。学級開きから学級目標やルールづくり、気になる子や思春期の子の指導、学級のまとまりを生む集団づくり、いじめ対応など、章ごとの「チャレンジチェック」でポイントもよくわかる一冊です。



授業を磨く
赤坂 真二 著
明治図書出版

「やさしさ」が育つ授業には、子供たちが夢中になって追究し、感性を磨くような環境作りが必要になります。その環境作りポイントがこの一冊には満載です。子供たちが真に主役となる授業を作ってみませんか。



「やさしさ」の教育
露木 和男 著
東洋館出版社

プログラミング教育への漠然とした疑問や準備すべき内容、実践にあたっての注意、最新の教材の紹介から、プログラミング教育必修化に至るまでの歴史的経緯・背景などの理論までを幅広くサポートする内容です。



カリキュラム
マネジメント入門
高橋 純 著
三井 寿哉 著
東洋館出版社

教育総合センターでは、各種教育関係図書や教科書等を保管しています。今回紹介した新刊以外にも多数の参考図書があります。また、月刊雑誌等も取り揃えています。閲覧や貸し出しをしていますので、是非ご利用ください。

